



Catalyst 3750 スイッチ デバッグ コマンド

この付録では、Catalyst 3750 スイッチ用に作成または変更された **debug** イネーブル EXEC コマンドについて説明します。これらのコマンドは、インターネットワーキングの問題の診断および解決に役立ちます。使用する場合には、必ずシスコのテクニカル サポート担当者の指示に従ってください。



注意

デバッグ出力には、CPU プロセスでハイ プライオリティが与えられるので、システムが使用不能になる可能性があります。したがって、**debug** コマンドを使用するのは、特定の問題のトラブルシューティング時、またはシスコのテクニカル サポート担当者とともにトラブルシューティングを行う場合に限定してください。**debug** コマンドは、ネットワーク トラフィックが少なく、ユーザも少ないときに使用するのが最良です。このような時期を選んでデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理の負担によってシステム利用が影響を受ける可能性が少なくなります。

debug auto qos

Automatic Quality of Service (Auto-QoS; 自動サービス品質) 機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug auto qos** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug auto qos

no debug auto qos

構文の説明

このコマンドには、キーワードと引数はありません。

デフォルト

Auto-QoS デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(14)EA1	このコマンドが導入されました。
12.2(18)SE	debug autoqos コマンドは、 debug auto qos に変更されました。

使用上の注意事項

Auto-QoS がイネーブルのときに自動的に生成された QoS コンフィギュレーションを表示するには、Auto-QoS をイネーブルにする *前に* デバッグをイネーブルにします。デバッグをイネーブルにするには、**debug auto qos** イネーブル EXEC コマンドを入力します。

undebug auto qos コマンドは、**no debug auto qos** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

例

次の例では、Auto-QoS がイネーブルになったときに自動的に生成される QoS コンフィギュレーションを表示する方法を示します。

```
Switch# debug auto qos
AutoQoS debugging is on
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface gigabitethernet2/0/1
Switch(config-if)# auto qos voip cisco-phone

21:29:41: mls qos map cos-dscp 0 8 16 26 32 46 48 56
21:29:41: mls qos
21:29:42: no mls qos srr-queue input cos-map
21:29:42: no mls qos srr-queue output cos-map
21:29:42: mls qos srr-queue input cos-map queue 1 threshold 3 0
21:29:42: mls qos srr-queue input cos-map queue 1 threshold 2 1
21:29:42: mls qos srr-queue input cos-map queue 2 threshold 1 2
21:29:42: mls qos srr-queue input cos-map queue 2 threshold 2 4 6 7
21:29:43: mls qos srr-queue input cos-map queue 2 threshold 3 3 5
21:29:43: mls qos srr-queue output cos-map queue 1 threshold 3 5
21:29:43: mls qos srr-queue output cos-map queue 2 threshold 3 3 6 7
21:29:44: mls qos srr-queue output cos-map queue 3 threshold 3 2 4
21:29:44: mls qos srr-queue output cos-map queue 4 threshold 2 1
21:29:44: mls qos srr-queue output cos-map queue 4 threshold 3 0
21:29:44: no mls qos srr-queue input dscp-map
21:29:44: no mls qos srr-queue output dscp-map
21:29:44: mls qos srr-queue input dscp-map queue 1 threshold 2 9 10 11 12 13 14 15
21:29:45: mls qos srr-queue input dscp-map queue 1 threshold 3 0 1 2 3 4 5 6 7
21:29:45: mls qos srr-queue input dscp-map queue 1 threshold 3 3 2
21:29:45: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 1 16 17 18 19 20 21 22 23
21:29:45: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 2 33 34 35 36 37 38 39 48
21:29:46: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 2 49 50 51 52 53 54 55 56
21:29:46: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 2 57 58 59 60 61 62 63
21:29:46: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 3 24 25 26 27 28 29 30 31
21:29:47: mls qos srr-queue input dscp-map queue 2 threshold 3 40 41 42 43 44 45 46 47
21:29:47: mls qos srr-queue output dscp-map queue 1 threshold 3 40 41 42 43 44 45 46 47
21:29:47: mls qos srr-queue output dscp-map queue 2 threshold 3 24 25 26 27 28 29 30 31
21:29:47: mls qos srr-queue output dscp-map queue 2 threshold 3 48 49 50 51 52 53 54 55
21:29:48: mls qos srr-queue output dscp-map queue 2 threshold 3 56 57 58 59 60 61 62 63
21:29:48: mls qos srr-queue output dscp-map queue 3 threshold 3 16 17 18 19 20 21 22 23
21:29:48: mls qos srr-queue output dscp-map queue 3 threshold 3 32 33 34 35 36 37 38 39
21:29:49: mls qos srr-queue output dscp-map queue 4 threshold 1 8
21:29:49: mls qos srr-queue output dscp-map queue 4 threshold 2 9 10 11 12 13 14 15
21:29:49: mls qos srr-queue output dscp-map queue 4 threshold 3 0 1 2 3 4 5 6 7
21:29:49: no mls qos srr-queue input priority-queue 1
21:29:49: no mls qos srr-queue input priority-queue 2
21:29:50: mls qos srr-queue input bandwidth 90 10
21:29:50: no mls qos srr-queue input buffers
21:29:50: mls qos queue-set output 1 buffers 10 10 26 54
21:29:50: interface GigabitEthernet2/0/1
21:29:50: mls qos trust device cisco-phone
21:29:50: mls qos trust cos
21:29:50: no queue-set 1
21:29:50: srr-queue bandwidth shape 10 0 0 0
21:29:50: srr-queue bandwidth share 10 10 60 20
```

関連コマンド

コマンド	説明
auto qos voip	QoS ドメイン内で Voice over IP (VoIP) の Auto-QoS を設定します。
show auto qos	Auto-QoS 機能により生成された初期設定を表示します。
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug backup

Flex Links バックアップ インターフェイスのデバッグをイネーブルにするには、**debug backup** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug backup {all | errors | events}
```

```
no debug backup {all | errors | events}
```

構文の説明

all	すべてのバックアップ インターフェイス デバッグ メッセージを表示します。
errors	バックアップ インターフェイス エラーまたは例外デバッグ メッセージを表示します。
events	バックアップ インターフェイス イベント デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

バックアップ インターフェイスのデバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(20)SE	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug backup コマンドは、**no debug backup** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug cluster

クラスタ特定イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug cluster** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug cluster {discovery | events | extended | hsrp | http | ip [packet] | members | nat | neighbors |
platform | snmp | vqpxy}
```

```
no debug cluster {discovery | events | extended | hsrp | http | ip [packet] | members | nat | neighbors
| platform | snmp | vqpxy}
```

構文の説明

discovery	クラスタ ディスカバリ デバッグ メッセージを表示します。
events	クラスタ イベント デバッグ メッセージを表示します。
extended	拡張 ディスカバリ デバッグ メッセージを表示します。
hsrp	Hot Standby Router Protocol (HSRP) デバッグ メッセージを表示します。
http	HTTP デバッグ メッセージを表示します。
ip [packet]	IP または トランスポート パケット デバッグ メッセージを表示します。
members	クラスタ メンバー デバッグ メッセージを表示します。
nat	Network Address Translation (NAT; ネットワーク アドレス変換) デバッグ メッセージを表示します。
neighbors	クラスタ ネイバ デバッグ メッセージを表示します。
platform	プラットフォーム 特定クラスタ デバッグ メッセージを表示します。
snmp	SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) デバッグ メッセージを表示します。
vqpxy	VLAN Query Protocol (VQP) プロキシ デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

このコマンドが利用できるのは、クラスタ コマンド スイッチ スタック または クラスタ コマンド スイッチに限られます。

undebug cluster コマンドは、**no debug cluster** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show debugging</code>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
<code>show cluster</code>	スイッチが属するクラスタのステータスおよびサマリーを表示します。
<code>show cluster candidates</code>	コマンド スイッチ上で入力された場合に候補スイッチのリストを表示します。
<code>show cluster members</code>	コマンド スイッチ上で実行された場合にクラスタ メンバーに関する情報を表示します。

debug dot1x

802.1x 機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug dot1x** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug dot1x {all | errors | events | packets | registry | state-machine}
```

```
no debug dot1x {all | errors | events | packets | registry | state-machine}
```

構文の説明

all	すべての 802.1x デバッグ メッセージを表示します。
errors	802.1x エラー デバッグ メッセージを表示します。
events	802.1x イベント デバッグ メッセージを表示します。
packets	802.1x パケット デバッグ メッセージを表示します。
registry	802.1x レジストリ呼び出しデバッグ メッセージを表示します。
state-machine	ステートマシン関連イベント デバッグ メッセージを表示します。



(注)

redundancy キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtringには表示されていますが、サポートされていません。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。
12.1(14)EA1	authsm 、 backend 、 besm 、 core 、および reauthsm キーワードが削除されました。 errors 、 events 、 packets registry 、および state-machine キーワードが追加されました。

使用上の注意事項

undebug dot1x コマンドは、**no debug dot1x** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を参照してください。
show dot1x	スイッチまたは指定されたポートの 802.1x 統計情報、管理ステータス、および動作ステータスを表示します。

debug dtp

この Dynamic Trunking Protocol (DTP) アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug dtp** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug dtp {aggregation | all | decision | events | oserrs | packets | queue | states | timers}
```

```
no debug dtp {aggregation | all | decision | events | oserrs | packets | queue | states | timers}
```

構文の説明

aggregation	DTP ユーザ メッセージ アグリゲーション デバッグ メッセージを表示します。
all	すべての DTP デバッグ メッセージを表示します。
decision	DTP 決定テーブル デバッグ メッセージを表示します。
events	DTP イベント デバッグ メッセージを表示します。
oserrs	DTP オペレーティング システム 関連エラー デバッグ メッセージを表示します。
packets	DTP パケット処理 デバッグ メッセージを表示します。
queue	DTP パケット キューイング デバッグ メッセージを表示します。
states	DTP ステート 遷移 デバッグ メッセージを表示します。
timers	DTP タイマー イベント デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug dtp コマンドは、**no debug dtp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
show dtp	スイッチまたは指定されたインターフェイスの DTP 情報を表示します。

debug etherchannel

EtherChannel/Port Aggregation Protocol (PAgP) シムのデバッグをイネーブルにするには、**debug etherchannel** イネーブル EXEC コマンドを使用します。このシムは、PAgP ソフトウェア モジュールとポート マネージャ ソフトウェア モジュール間のインターフェイスとなるソフトウェア モジュールです。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug etherchannel [**all** | **detail** | **error** | **event** | **idb**]

no debug etherchannel [**all** | **detail** | **error** | **event** | **idb**]

構文の説明

all	(任意) EtherChannel デバッグ メッセージをすべて表示します。
detail	(任意) EtherChannel デバッグ メッセージの詳細を表示します。
error	(任意) EtherChannel エラー デバッグ メッセージを表示します。
event	(任意) 主な EtherChannel イベント メッセージをデバッグします。
idb	(任意) PAgP インターフェイス記述子ブロック デバッグ メッセージを表示します。



(注)

linecard キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtringには表示されていますが、サポートされていません。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

キーワードを指定しない場合は、すべてのデバッグ メッセージが表示されます。

undebug etherchannel コマンドは、**no debug etherchannel** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で

remote command stack-member-number LINE イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
show etherchannel	チャンネルの EtherChannel 情報を表示します。

debug ilpower

電源コントローラおよび Power over Ethernet (PoE) システムのデバッグをイネーブルにするには、**debug ilpower** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug ilpower {cdp | controller | event | ha | port | powerman | registries}
```

```
no debug ilpower {cdp | controller | event | ha | port | powerman | registries}
```

構文の説明

cdp	PoE Cisco Discovery Protocol (CDP) デバッグ メッセージを表示します。
controller	PoE コントローラ デバッグ メッセージを表示します。
event	PoE イベント デバッグ メッセージを表示します。
ha	PoE ハイ アベイラビリティ メッセージを表示します。
port	PoE ポート マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
powerman	PoE 電源管理デバッグ メッセージを表示します。
registries	PoE レジスタ デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EA1	このコマンドが導入されました。
12.2(25)SE	cdp 、 ha 、 powerman キーワードが追加されました。

使用上の注意事項

このコマンドは、PoE 対応スイッチでのみサポートされています。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバースイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show controllers power inline	指定した PoE コントローラのレジスタの値を表示します。
show power inline	指定した PoE ポートまたはすべての PoE ポートの電源ステータスを表示します。

debug ip dhcp snooping

Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) スヌーピングのデバッグをイネーブルにするには、**debug ip dhcp snooping** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug ip dhcp snooping {mac-address | agent | event | packet}
```

```
no debug ip dhcp snooping {mac-address | agent | event | packet}
```

このコマンドは、ご使用のスイッチで IP サービスが稼働している場合にかぎり使用できます。IP サービスは、以前は Enhanced Multilayer Image (EMI) と呼ばれていました。

構文の説明

<i>mac-address</i>	指定の MAC (メディア アクセス制御) アドレスを持つ DHCP パケットのデバッグ メッセージを表示します。
agent	DHCP スヌーピング エージェントのデバッグ メッセージを表示します。
event	DHCP スヌーピング イベントのデバッグ メッセージを表示します。
packet	DHCP スヌーピングのデバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(20)SE	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug ip dhcp snooping コマンドは、**no debug ip dhcp snooping** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug ip verify source packet

IP ソース ガードのデバッグをイネーブルにするには、**debug ip verify source packet** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug ip verify source packet

no debug ip verify source packet

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(20)SE	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug ip verify source packet コマンドは、**no debug ip verify source packet** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug interface

インターフェイス関連アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug interface** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug interface {interface-id | null interface-number | port-channel port-channel-number |
                vlan vlan-id}
```

```
no debug interface {interface-id | null interface-number | port-channel port-channel-number |
                   vlan vlan-id}
```

構文の説明

<i>interface-id</i>	タイプスイッチ番号/モジュール番号/ポート(例: gigabitethernet 1/0/2)によって識別される指定された物理ポートのデバッグ メッセージを表示します。
null interface-number	ヌルインターフェイスのデバッグ メッセージを表示します。 <i>interface-number</i> は常に 0 です。
port-channel <i>port-channel-number</i>	指定された EtherChannel ポートチャネル インターフェイスのデバッグ メッセージを表示します。指定できる <i>port-channel-number</i> の範囲は 1 ~ 48 です。
vlan vlan-id	指定された VLAN (仮想 LAN) のデバッグ メッセージを表示します。指定できる <i>vlan id</i> の範囲は 1 ~ 4094 です。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

キーワードを指定しない場合は、すべてのデバッグ メッセージが表示されます。

undebug interface コマンドは、**no debug interface** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
show etherchannel	チャネルの EtherChannel 情報を表示します。

debug ip igmp filter

Internet Group Management Protocol (IGMP) フィルタ イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug ip igmp filter** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug ip igmp filter

no debug ip igmp filter

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug ip igmp filter コマンドは、**no debug ip igmp filter** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug ip igmp max-groups

Internet Group Management Protocol (IGMP) 最大グループ イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug ip igmp max-groups** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug ip igmp max-groups

no debug ip igmp max-groups

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug ip igmp max-groups コマンドは、**no debug ip igmp max-groups** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug ip igmp snooping

Internet Group Management Protocol (IGMP) スヌーピング アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug ip igmp snooping** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug ip igmp snooping [group | management | querier | router | timer]

no debug ip igmp snooping [group | management | querier | router | timer]

構文の説明

group	(任意) IGMP スヌーピング グループ アクティビティのデバッグ メッセージを表示します。
management	(任意) IGMP スヌーピング管理アクティビティのデバッグ メッセージを表示します。
querier	(任意) IGMP スヌーピング クェリアのデバッグ メッセージを表示します。
router	(任意) IGMP スヌーピング ルータ アクティビティのデバッグ メッセージを表示します。
timing	(任意) IGMP スヌーピング タイマー イベントのデバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。
12.2(25)SEA	querier キーワードが追加されました。

使用上の注意事項

undebug ip igmp snooping コマンドは、**no debug ip igmp snooping** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で

remote command stack-member-number LINE イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
debug platform ip igmp snooping	プラットフォーム依存 IGMP スヌーピング アクティビティに関する情報を表示します。
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug lacp

Link Aggregation Control Protocol (LACP) アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug lacp** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug lacp [all | event | fsm | misc | packet]
```

```
no debug lacp [all | event | fsm | misc | packet]
```

構文の説明

all	(任意) LACP デバッグ メッセージをすべて表示します。
event	(任意) LACP イベント デバッグ メッセージを表示します。
fsm	(任意) LACP 有限状態マシン デバッグ メッセージを表示します。
misc	(任意) 各種 LACP デバッグ メッセージを表示します。
packet	(任意) LACP パケット デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(14)EA1	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug lacp コマンドは、**no debug lacp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
show lacp	LACP チャネル グループ情報を表示します。

debug mac-notification

MAC (メディア アクセス制御) 通知イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug mac-notification** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug mac-notification

no debug mac-notification

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug mac-notification コマンドは、**no debug mac-notification** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
show mac address-table notification	すべてのインターフェイスまたは指定されたインターフェイスに対する MAC アドレス通知情報を表示します。

debug matm

プラットフォーム独立 MAC（メディア アクセス制御）アドレス管理のデバッグをイネーブルにするには、**debug matm** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug matm

no debug matm

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug matm コマンドは、**no debug matm** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
debug platform matm	プラットフォーム依存 MAC アドレス管理に関する情報を表示します。
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug matm move update

MAC (メディア アクセス制御) アドレステーブル移行更新メッセージ処理のデバッグをイネーブルにするには、**debug matm move update** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

debug matm move update

no debug matm move update

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(25)SED	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug matm move update コマンドは、**no debug matm move update** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
mac address-table move update {receive transmit}	スイッチ上で MAC アドレステーブル移行更新機能を設定します。
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
show mac address-table move update	スイッチの MAC アドレステーブル移行更新情報を表示します。

debug monitor

Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチドポートアナライザ) 機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug monitor** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug monitor {all | errors | idb-update | info | list | notifications | platform | requests | snmp}
```

```
no debug monitor {all | errors | idb-update | info | list | notifications | platform | requests | snmp}
```

構文の説明

all	すべての SPAN デバッグ メッセージを表示します。
errors	詳細な SPAN エラー デバッグ メッセージを表示します。
idb-update	SPAN Interface Descriptor Block (IDB) 更新追跡デバッグ メッセージを表示します。
info	SPAN 情報追跡デバッグ メッセージを表示します。
list	SPAN ポートおよび VLAN (仮想 LAN) リスト追跡デバッグ メッセージを表示します。
notifications	SPAN 通知デバッグ メッセージを表示します。
platform	SPAN プラットフォーム追跡デバッグ メッセージを表示します。
requests	SPAN 要求デバッグ メッセージを表示します。
snmp	SPAN および SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) 追跡デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebg monitor コマンドは、**no debug monitor** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
show monitor	スイッチ上の SPAN および Remote SPAN (RSPAN) セッションについてのすべての情報を表示します。

debug mvrdbg

Multicast VLAN Registration (MVR) のデバッグをイネーブルにするには、**debug mvrdbg** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug mvrdbg {all | events | igmpsn | management | ports}
```

```
no debug mvrdbg {all | events | igmpsn | management | ports}
```

構文の説明

all	すべての MVR アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
events	MVR イベント処理デバッグ メッセージを表示します。
igmpsn	Internet Group Management Protocol (IGMP) スヌーピング アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
management	MVR 管理アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
port	MVR ポート デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug mvrdbg コマンドは、**no debug mvrdbg** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
show mvr	現在の MVR 設定を表示します。

debug nvram

NVRAM（不揮発性 RAM）のアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug nvram** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug nvram

no debug nvram

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug nvram コマンドは、**no debug nvram** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug pagp

Port Aggregation Protocol (PAgP) アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug pagp** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug pagp [**all** | **event** | **fsm** | **misc** | **packet**]

no debug pagp [**all** | **event** | **fsm** | **misc** | **packet**]

構文の説明

all	(任意) PAgP デバッグ メッセージをすべて表示します。
event	(任意) PAgP イベント デバッグ メッセージを表示します。
fsm	(任意) PAgP 有限状態マシン デバッグ メッセージを表示します。
misc	(任意) 各種 PAgP デバッグ メッセージを表示します。
packet	(任意) PAgP パケット デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug pagp コマンドは、**no debug pagp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
show pagp	PAgP チャネル グループ情報を表示します。

debug platform acl

Access Control List (ACL; アクセス制御リスト) マネージャのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform acl** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform acl {all | exit | label | main | racl | stack | vacl | vlmmap | warn}
```

```
no debug platform acl {all | exit | label | main | racl | stack | vacl | vlmmap | warn}
```

構文の説明

all	すべての ACL マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
exit	ACL 終了関連デバッグ メッセージを表示します。
label	ACL ラベル関連デバッグ メッセージを表示します。
main	主要あるいは重要な ACL デバッグ メッセージを表示します。
racl	ルータ ACL 関連デバッグ メッセージを表示します。
stack	ACL スタック関連デバッグ メッセージを表示します。
vacl	VLAN (仮想 LAN) ACL 関連デバッグ メッセージを表示します。
vlmap	ACL VLAN マップ関連デバッグ メッセージを表示します。
warn	ACL 警告関連デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform acl コマンドは、**no debug platform acl** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で

remote command stack-member-number LINE イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform backup interface

Flex Links プラットフォーム バックアップ インターフェイスのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform backup interface** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug platform backup interface

no debug platform backup interface

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

プラットフォーム バックアップ インターフェイスのデバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(20)SE	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform backup interface コマンドは、**no platform debug backup interface** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform cli-redirection main

主要（重要）な CLI（コマンドライン インターフェイス）リダイレクション イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform cli-redirection main** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug platform cli-redirection main

no debug platform cli-redirection main

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform cli-redirection main コマンドは、**no debug platform cli-redirection main** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform configuration

スタック全体のコンフィギュレーション ファイル アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform configuration** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug platform configuration {all | reception | transmission}

no debug platform configuration {all | reception | transmission}

構文の説明

all	スタック全体のすべてのコンフィギュレーション ファイルの送受信イベントのデバッグ メッセージを表示します。
reception	他のスタック メンバーからのコンフィギュレーション ファイル受信のデバッグ メッセージを表示します。
transmission	他のスタック メンバーへのコンフィギュレーション ファイル送信のデバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform configuration コマンドは、**no debug platform configuration** コマンドと同じです。デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform cpu-queues

プラットフォーム CPU 受信キューのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform cpu-queues** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform cpu-queues {broadcast-q | cbt-to-spt-q | cpuhub-q | host-q | icmp-q |
  igmp-snooping-q | layer2-protocol-q | logging-q | remote-console-q | routing-protocol-q |
  rpffail-q | software-fwd-q | stp-q}
```

```
no debug platform cpu-queues {broadcast-q | cbt-to-spt-q | cpuhub-q | host-q | icmp-q |
  igmp-snooping-q | layer2-protocol-q | logging-q | remote-console-q | routing-protocol-q |
  rpffail-q | software-fwd-q | stp-q}
```

構文の説明

broadcast-q	ブロードキャスト キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
cbt-to-spt-q	core-based tree to shortest-path tree (cbt-to-spt) キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
cpuhub-q	CPU ハートビート キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
host-q	ホスト キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
icmp-q	Internet Control Message Protocol (ICMP) キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
igmp-snooping-q	Internet Group Management Protocol (IGMP) スヌーピング キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
layer2-protocol-q	レイヤ 2 プロトコル キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
logging-q	ロギング キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
remote-console-q	リモート コンソール キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
routing-protocol-q	ルーティング プロトコル キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
rpffail-q	Reverse Path Forwarding (RFP) 障害キューによって受信されたパケットに関するデバッグメッセージを表示します。
software-fwd-q	ソフトウェア フォワーディング キューによって受信されたパケットをデバッグします。
stp-q	Spanning-Tree Protocol (STP; スパニングツリー プロトコル) キューによって受信されたパケットをデバッグします。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform cpu-queues コマンドは、**no debug platform cpu-queues** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform device-manager

プラットフォーム依存デバイス マネージャのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform device-manager** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug platform device-manager {all | device-info | poll | port-download | trace}

no debug platform device-manager {all | device-info | poll | port-download | trace}

構文の説明

all	すべてのプラットフォーム デバイス マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
device-info	プラットフォーム デバイス マネージャ デバイス構造デバッグ メッセージを表示します。
poll	プラットフォーム デバイス マネージャ 1 セカンド ポール デバッグ メッセージを表示します。
port-download	デバイス マネージャ Remote Procedure Call (RPC) 使用状況デバッグ メッセージを表示します。
trace	プラットフォーム デバイス マネージャ機能の入口と出口のデバッグ メッセージを追跡します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform device-manager コマンドは、**no debug platform device-manager** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform dot1x

スタック関連 802.1x イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform dot1x** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug platform dot1x {initialization | interface-configuration | rpc}

no debug platform dot1x {initialization | interface-configuration | rpc}

構文の説明	initialization	802.1x 初期化シーケンス デバッグ メッセージを表示します。
	interface-configuration	802.1x インターフェイス コンフィギュレーション関連デバッグ メッセージを表示します。
	rpc	802.1x Remote Procedure Call (RPC) 要求デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト デバッグはディセーブルです。

コマンドモード イネーブル EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項 **undebug platform dot1x** コマンドは、**no debug platform dot1x** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform etherchannel

プラットフォーム依存 EtherChannel イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform etherchannel** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform etherchannel {init | link-up | rpc | warnings}
```

```
no debug platform etherchannel {init | link-up | rpc | warnings}
```

構文の説明

init	EtherChannel モジュール初期化デバッグ メッセージを表示します。
link-up	EtherChannel リンクアップおよびリンクダウンに関連したデバッグ メッセージを表示します。
rpc	EtherChannel Remote Procedure Call (RPC) デバッグ メッセージを表示します。
warnings	EtherChannel 警告デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform etherchannel コマンドは、**no debug platform etherchannel** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で

remote command stack-member-number LINE イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform fallback-bridging

プラットフォーム依存フォールバック ブリッジング マネージャのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform fallback-bridging** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug platform fallback-bridging [error | retry | rpc {events | messages}]

no debug platform fallback-bridging [error | retry | rpc {events | messages}]

構文の説明

error	(任意) フォールバック ブリッジング マネージャ エラー条件メッセージを表示します。
retry	(任意) フォールバック ブリッジング マネージャ再試行メッセージを表示します。
rpc {events messages}	(任意) フォールバック ブリッジング デバッグ情報を表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • events — Remote Procedure Call (RPC) イベントを表示します。 • messages — RPC メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

キーワードを指定しない場合、すべてのフォールバック ブリッジング マネージャ デバッグ メッセージが表示されます。

undebug platform fallback-bridging コマンドは、**no debug platform fallback-bridging** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform forw-tcam

フォワーディング Ternary CAM (TCAM) マネージャのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform forw-tcam** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug platform forw-tcam [adjustment | allocate | audit | error | move | read | write]

no debug platform forw-tcam [adjustment | allocate | audit | error | move | read | write]

構文の説明

adjustment	(任意) TCAM マネージャ調整デバッグ メッセージを表示します。
allocate	(任意) TCAM マネージャ割り当てデバッグ メッセージを表示します。
audit	(任意) TCAM マネージャ監査メッセージを表示します。
error	(任意) TCAM マネージャ エラー メッセージを表示します。
move	(任意) TCAM マネージャ移動メッセージを表示します。
read	(任意) TCAM マネージャ読み取りメッセージを表示します。
write	(任意) TCAM マネージャ書き込みメッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

キーワードを指定しない場合、すべてのフォワーディング TCAM マネージャ デバッグ メッセージが表示されます。

undebg platform forw-tcam コマンドは、**no debug platform forw-tcam** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で

remote command stack-member-number LINE イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform frontend-controller

フロントエンドコントローラ アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform frontend-controller** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug platform frontend-controller {all | image | led | manager | poe | register | thermal}

no debug platform frontend-controller {all | image | led | manager | poe | register | thermal}

構文の説明

all	フロントエンドコントローラのデバッグ メッセージすべてを表示します。
image	Image Manager デバッグ メッセージを表示します。
led	LED デバッグ メッセージを表示します。
manager	フロントエンドコントローラ マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
poe	Power over Ethernet (PoE) デバッグ メッセージを表示します。
register	Register Access デバッグ メッセージを表示します。
thermal	温度デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(20)SE3	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

このコマンドは、Catalyst 3750G-48TS、3750G-48PS、3750G-24TS-1U、および 3750G-24PS スイッチでのみサポートされます。

undebug platform frontend-controller コマンドは、**no debug platform frontend-controller** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で

remote command stack-member-number LINE イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show platform frontend-controller	フロントエンドコントローラ マネージャおよび下位アプリケーションの、カウンタとステータス情報を表示します。また、フロントエンドコントローラのハードウェアおよびソフトウェア情報を表示します。
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform ip arp inspection

ダイナミック Address Resolution Protocol (ARP; アドレス解決プロトコル) 検査イベントをデバッグするには、**debug platform ip arp inspection** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug platform ip arp inspection {all | error | event | packet | rpc}

no debug platform ip arp inspection {all | error | event | packet | rpc}

構文の説明

all	ダイナミック ARP 検査デバッグ メッセージをすべて表示します。
error	ダイナミック ARP 検査エラー デバッグ メッセージを表示します。
event	ダイナミック ARP 検査イベント デバッグ メッセージを表示します。
packet	ダイナミック ARP 検査パケット関連デバッグ メッセージを表示します。
rpc	ダイナミック ARP 検査 Remote Procedure Call (RPC) 要求デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(20)SE	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform ip arp inspection コマンドは、**no debug platform ip arp inspection** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show inventory	ダイナミック ARP 検査の設定および動作ステータスを表示します。
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform ip dhcp

Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) イベントをデバッグするには、**debug platform ip dhcp** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform ip dhcp [all | error | event | packet | rpc]
```

```
no debug platform ip dhcp [all | error | event | packet | rpc]
```

構文の説明

all	(任意) DHCP デバッグ メッセージをすべて表示します。
error	(任意) DHCP エラー デバッグ メッセージを表示します。
event	(任意) DHCP イベント デバッグ メッセージを表示します。
packet	(任意) DHCP パケット関連デバッグ メッセージを表示します。
rpc	(任意) DHCP Remote Procedure Call (RPC) デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(19)EA1	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform ip dhcp コマンドは、**no debug platform ip dhcp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show ip dhcp snooping	DHCP スヌーピング設定を表示します。
show ip dhcp snooping binding	DHCP スヌーピング バインディング情報を表示します。
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform ip igmp snooping

プラットフォーム依存の Internet Group Management Protocol (IGMP) スヌーピングのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform ip igmp snooping** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform ip igmp snooping {all | di | error | event | group | mgmt | pak | retry | rpc | warn}
```

```
debug platform ip igmp snooping pak {ip-address | error | ipopt | leave | query | report | rx | svi | tx}
```

```
debug platform ip igmp snooping rpc [cfg | l3mm | misc | vlan]
```

```
no debug platform ip igmp snooping {all | di | error | event | group | mgmt | pak | retry | rpc | warn}
```

構文の説明

all	すべての IGMP スヌーピング デバッグ メッセージを表示します。
di	IGMP スヌーピング Destination Index (DI) 調整 Remote Procedure Call (RPC) デバッグ メッセージを表示します。
error	IGMP スヌーピング エラー メッセージを表示します。
event	IGMP スヌーピング イベント デバッグ メッセージを表示します。
group	IGMP スヌーピング グループ デバッグ メッセージを表示します。
mgmt	IGMP スヌーピング管理デバッグ メッセージを表示します。
pak {ip-address error ipopt leave query report rx svi tx}	IGMP スヌーピング パケット イベント デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ip-address — IGMP グループの IP アドレス error — IGMP スヌーピング パケット エラー デバッグ メッセージを表示します。 ipopt — IGMP スヌーピング IP ブリッジング オプション デバッグ メッセージを表示します。 leave — IGMP スヌーピング脱退デバッグ メッセージを表示します。 query — IGMP スヌーピング クエリー デバッグ メッセージを表示します。 report — IGMP スヌーピング レポート デバッグ メッセージを表示します。 rx — IGMP スヌーピング受信パケット デバッグ メッセージを表示します。 svi — IGMP スヌーピング Switched Virtual Interface (SVI; スイッチ仮想インターフェイス) パケット デバッグ メッセージを表示します。 tx — IGMP スヌーピング送信パケット デバッグ メッセージを表示します。
retry	IGMP スヌーピング再試行デバッグ メッセージを表示します。
rpc [cfg l3mm misc vlan]	IGMP スヌーピング RPC イベント デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> cfg — (任意) IGMP スヌーピング RPC デバッグ メッセージを表示します。 l3mm — (任意) IGMP スヌーピング レイヤ 3 マルチキャスト ルータ グループ RPC デバッグ メッセージ misc — (任意) IGMP スヌーピング各種 RPC デバッグ メッセージ vlan — (任意) IGMP スヌーピング VLAN (仮想 LAN) アサート RPC デバッグ メッセージ
warn	IGMP スヌーピング警告メッセージを表示します。

■ debug platform ip igmp snooping

デフォルト デバッグはディセーブルです。

コマンドモード イネーブル EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項 `undebbug platform ip igmp snooping` コマンドは、`no debug platform ip igmp snooping` コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、`session switch-number` イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで `debug` コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で `remote command stack-member-number LINE` イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>debug ip igmp snooping</code>	プラットフォーム独立 IGMP スヌーピングアクティビティに関する情報を表示します。
	<code>show debugging</code>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform ip multicast

IP マルチキャスト ルーティングのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform ip multicast** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform ip multicast {all | mdb | mdfs-rp-retry | midb | mroute-rp | resources | retry |
rpf-throttle | snoop-events | software-forward | swidb-events | vlan-locks}
```

```
no debug platform ip multicast {all | mdb | mdfs-rp-retry | midb | mroute-rp | resources | retry |
rpf-throttle | snoop-events | software-forward | swidb-events | vlan-locks}
```

構文の説明

all	すべてのプラットフォーム IP マルチキャスト イベント デバッグ メッセージを表示します。
	 (注) このコマンドを使用すると、スイッチのパフォーマンスが低下する場合があります。
mdb	Multicast Distributed Fast Switching (MDFS) Multicast Descriptor Block (MDB) イベント用 IP マルチキャスト デバッグ メッセージを表示します。
mdfs-rp-retry	IP マルチキャスト MDFS Rendezvous Point (RP; ランデブー ポイント) 再試行 イベント デバッグ メッセージを表示します。
midb	IP マルチキャスト MDFS Multicast Interface Descriptor Block (MIDB) デバッグ メッセージを表示します。
mroute-rp	IP マルチキャスト RP イベント デバッグ メッセージを表示します。
resources	IP マルチキャスト ハードウェア リソース デバッグ メッセージを表示します。
retry	IP マルチキャスト再試行処理イベント デバッグ メッセージを表示します。
rpf-throttle	IP マルチキャスト Reverse Path Forwarding (RPF) スロットル イベント デバッグ メッセージを表示します。
snoop-events	IP マルチキャスト Internet Group Management Protocol (IGMP) スヌーピング イベント デバッグ メッセージを表示します。
software-forward	IP マルチキャスト ソフトウェア フォワーディング イベント デバッグ メッセージを表示します。
swidb-events	IP マルチキャスト MDFS Software Interface Descriptor Block (SWIDB) またはグローバル イベント デバッグ メッセージを表示します。
vlan-locks	IP マルチキャスト VLAN (仮想 LAN) ロックおよびアンロック イベント デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform ip multicast コマンドは、**no debug platform ip multicast** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform ip unicast

プラットフォーム依存 IP ユニキャスト ルーティングのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform ip unicast** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform ip unicast {adjacency | all | arp | dhcp | errors | events | interface | mpath | registries
| retry | route | rpc | standby | statistics}
```

```
no debug platform ip unicast {adjacency | all | arp | dhcp | errors | events | interface | mpath |
registries | retry | route | rpc | standby | statistics}
```

構文の説明

adjacency	IP ユニキャスト ルーティング隣接プログラミング イベント デバッグ メッセージを表示します。
all	すべてのプラットフォーム IP ユニキャスト ルーティング デバッグ メッセージを表示します。
	 <p>(注) このコマンドを使用すると、スイッチのパフォーマンスが低下する場合があります。</p>
arp	IP ユニキャスト ルーティング Address Resolution Protocol (ARP; アドレス解決プロトコル) および ARP スロットリング デバッグ メッセージを表示します。
dhcp	IP ユニキャスト ルーティング Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) ダイナミック アドレス関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
errors	リソース割り当て障害を含むすべての IP ユニキャスト ルーティング エラー デバッグ メッセージを表示します。
events	レジストリおよび各種イベントを含むすべての IP ユニキャスト ルーティング イベント デバッグ メッセージを表示します。
interface	IP ユニキャスト ルーティング インターフェイス イベント デバッグ メッセージを表示します。
mpath	(等価または不等価コスト ルーティングを実行する場合に存在する) IP ユニキャスト ルーティング マルチパス隣接プログラミング イベント デバッグ メッセージを表示します。
registries	IP ユニキャスト ルーティング Forwarding Information Base (FIB; 転送情報ベース)、隣接追加、更新、および削除レジストリ イベント デバッグ メッセージを表示します。
retry	IP ユニキャスト ルーティング再プログラム FIB を Ternary CAM (TCAM) 割り当て障害デバッグ メッセージとともに表示します。
route	IP ユニキャスト ルーティング FIB TCAM プログラミング イベント デバッグ メッセージを表示します。
rpc	IP ユニキャスト ルーティング レイヤ 3 ユニキャスト Remote Procedure Call (RPC) 対話デバッグ メッセージを表示します。
standby	IP ユニキャスト ルーティング スタンバイ イベント デバッグ メッセージを表示します。これは、Hot Standby Routing Protocol (HSRP) 問題の解決に役立ちます。
statistics	IP ユニキャスト ルーティング統計収集関連のイベント デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

■ debug platform ip unicast

コマンドモード イネーブル EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項 **undebg platform ip unicast** コマンドは、**no debug platform ip unicast** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform ipc

プラットフォーム依存 Interprocess Communication (IPC) プロトコルのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform ipc** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform ipc {all | init | receive | send | trace}
```

```
no debug platform {all | init | receive | send | trace}
```

構文の説明

all すべてのプラットフォーム IPC デバッグ メッセージを表示します。



(注) このコマンドを使用すると、スイッチのパフォーマンスが低下する場合があります。

init	IPC 初期化関連デバッグ メッセージを表示します。
receive	IPC パケットがスイッチに受信されるたびに IPC 追跡を表示します。
send	IPC パケットをスイッチが送信するたびに IPC 追跡を表示します。
trace	IPC 機能の実行に従いコードパスを追跡する IPC 追跡デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform ipc コマンドは、**no debug platform ipc** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform led

LED アクションのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform led** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform led {generic | signal | stack}
```

```
no debug platform led {generic | signal | stack}
```

構文の説明

generic	LED 総称アクションデバッグ メッセージを表示します。
signal	LED 信号ビットマップデバッグ メッセージを表示します。
stack	LED スタックアクションデバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform led コマンドは、**no debug platform led** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform matm

プラットフォーム依存 MAC（メディア アクセス制御）アドレス管理のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform matm** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform matm {aging | all | ec-aging | errors | learning | rpc | secure-address | warnings}
```

```
no debug platform matm {aging | all | ec-aging | errors | learning | rpc | secure-address | warnings}
```

構文の説明

aging	MAC アドレス エージング デバッグ メッセージを表示します。
all	すべてのプラットフォーム MAC アドレス管理イベント デバッグ メッセージを表示します。
ec-aging	EtherChannel アドレス エージング関連デバッグ メッセージを表示します。
errors	MAC アドレス管理エラー メッセージを表示します。
learning	MAC アドレス管理アドレス学習デバッグ メッセージを表示します。
rpc	MAC アドレス管理 Remote Procedure Call (RPC) 関連デバッグ メッセージを表示します。
secure-address	MAC アドレス管理セキュア アドレス学習デバッグ メッセージを表示します。
warning	MAC アドレス管理警告メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform matm コマンドは、**no debug platform matm** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
debug matm	プラットフォーム独立 MAC アドレス管理に関する情報を表示します。
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform messaging application

アプリケーション メッセージング アクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform messaging application** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform messaging application {all | badpak | cleanup | events | memerr | messages | stackchg | usererr}
```

```
no debug platform messaging application {all | badpak | cleanup | events | memerr | messages | stackchg | usererr}
```

構文の説明

all	すべてのアプリケーション メッセージング デバッグ メッセージを表示します。
badpak	不良パケット デバッグ メッセージを表示します。
cleanup	クリーンアップ デバッグ メッセージを表示します。
events	イベント デバッグ メッセージを表示します。
memerr	メモリ エラー デバッグ メッセージを表示します。
messages	アプリケーション メッセージング デバッグ メッセージを表示します。
stackchg	スタック変更デバッグ メッセージを表示します。
usererr	ユーザ エラー デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform messaging application コマンドは、**no debug platform messaging application** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を参照してください。

debug platform phy

Physical Sublayer (PHY; 物理サブレイヤ) ドライバ情報のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform phy** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform phy {automdix | cablediag | dual-purpose | flcd {configure | ipc | iter | trace} |
  flowcontrol | forced | init-seq | link-status | read | sfp | show-controller | speed | write | xenpak}
no debug platform phy {automdix | cablediag | dual-purpose | flcd {configure | ipc | iter | trace} |
  flowcontrol | forced | init-seq | link-status | read | sfp | show-controller | speed | write | xenpak}
```

構文の説明

automdix	PHY Automatic Media-Dependent-Interface Crossover (Auto-MDIX; 自動メディア依存型インターフェイス クロスオーバー) デバッグ メッセージを表示します。
cablediag	PHY cable-diagnostic デバッグ メッセージを表示します。
dual-purpose	PHY dual-purpose イベント デバッグ メッセージを表示します。
flcd {configure ipc iter trace}	PHY FLCD デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> configure — PHY 設定デバッグ メッセージを表示します。 ipc — Interprocess Communication Protocol (IPC) デバッグ メッセージを表示します。 iter — iter デバッグ メッセージを表示します。 trace — 追跡デバッグ メッセージを表示します。
flowcontrol	PHY フロー制御デバッグ メッセージを表示します。
forced	PHY 強制モード デバッグ メッセージを表示します。
init-seq	PHY 初期化シーケンス デバッグ メッセージを表示します。
link-status	PHY リンク ステータス デバッグ メッセージを表示します。
read	PHY 読み取りデバッグ メッセージを表示します。
sfp	PHY Small Form-Factor Pluggable (SFP) モジュール デバッグ メッセージを表示します。
show-controller	PHY ショー コントローラ デバッグ メッセージを表示します。
speed	PHY 速度変更デバッグ メッセージを表示します。
write	PHY 書き込みデバッグ メッセージを表示します。
xenpak	PHY XENPAK デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。
12.1(14)EA1	automdix キーワードが追加されました。

使用上の注意事項

undebug platform phy コマンドは、**no debug platform phy** コマンドと同じです。

■ debug platform phy

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を参照してください。

debug platform pm

プラットフォーム依存ポート マネージャ ソフトウェア モジュールのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform pm** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform pm {all | counters | errdisable | etherchnl | exceptions | hpm-events | idb-events |
if-numbers | ios-events | link-status | platform | pm-events | pm-span | pm-vectors [detail] | rpc
[general | oper-info | state | vectors | vp-events] | soutput-vectors | stack-manager | sync | vlans}
no debug platform pm {all | counters | errdisable | etherchnl | exceptions | hpm-events | idb-events |
if-numbers | ios-events | link-status | platform | pm-events | pm-span | pm-vectors [detail] | rpc
[general | oper-info | state | vectors | vp-events] | soutput-vectors | stack-manager | sync | vlans}
```

構文の説明

all	すべてのポート マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
counters	Remote Procedure Call (RPC) デバッグ メッセージのカウンタを表示します。
errdisable	エラーディセーブル関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
etherchnl	EtherChannel 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
exceptions	システム例外デバッグ メッセージを表示します。
hpm-events	プラットフォーム ポート マネージャ イベント デバッグ メッセージを表示します。
idb-events	Interface Descriptor Block (IDB) 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
if-numbers	インターフェイス番号トランスレーション イベント デバッグ メッセージを表示します。
ios-events	Cisco IOS イベント デバッグ メッセージを表示します。
link-status	インターフェイス リンク検出イベント デバッグ メッセージを表示します。
platform	ポート マネージャ機能イベント デバッグ メッセージを表示します。
pm-events	ポート マネージャ イベント デバッグ メッセージを表示します。
pm-span	ポート マネージャ Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチドポートアナライザ) イベント デバッグ メッセージを表示します。
pm-vectors [detail]	ポート マネージャ ベクタ関連イベント デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> detail — ベクタ機能詳細を表示します。
rpc [general oper-info state vectors vp-events]	RPC 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> general — (任意) RPC 一般イベントを表示します。 oper-info — (任意) 操作および情報関連 RPC メッセージを表示します。 state — (任意) 管理および操作関連 RPC メッセージを表示します。 vectors — (任意) ベクタ関連 RPC メッセージを表示します。 vp-events — (任意) 仮想ポート関連イベント RPC メッセージを表示します。
soutput-vectors	IDB 出力ベクタ イベント デバッグ メッセージを表示します。
stack-manager	スタック マネージャ関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
sync	操作同期および VLAN (仮想 LAN) ラインステート イベント デバッグ メッセージを表示します。
vlans	VLAN 作成および削除イベント デバッグ メッセージを表示します。

■ debug platform pm

デフォルト デバッグはディセーブルです。

コマンドモード イネーブル EXEC

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項 `undebug platform pm` コマンドは、`no debug platform pm` コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、`session switch-number` イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで `debug` コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で `remote command stack-member-number LINE` イネーブル EXEC コマンドを使用します。

コマンド	説明
<code>show debugging</code>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を参照してください。

debug platform port-asic

ポート Application Specific Integrated Circuit (ASIC; 特定用途向け IC) ドライバのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform port-asic** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug platform port-asic {interrupt | periodic | read | stack | write}

no debug platform port-asic {interrupt | periodic | read | stack | write}

構文の説明

interrupt	ポート ASIC 割り込み関連機能デバッグ メッセージを表示します。
periodic	ポート ASIC 定期機能コール デバッグ メッセージを表示します。
read	ポート ASIC 読み取りデバッグ メッセージを表示します。
stack	スタック関連機能デバッグ メッセージを表示します。
write	ポート ASIC 書き込みデバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform port-asic コマンドは、**no debug platform port-asic** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を参照してください。

debug platform port-security

プラットフォーム依存ポートセキュリティ情報のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform port-security** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug platform port-security {add | aging | all | delete | errors | rpc | warnings}

no debug platform port-security {add | aging | all | delete | errors | rpc | warnings}

構文の説明

add	セキュアアドレス追加デバッグメッセージを表示します。
aging	セキュアアドレスエイジングデバッグメッセージを表示します。
all	すべてのポートセキュリティデバッグメッセージを表示します。
delete	セキュアアドレス削除デバッグメッセージを表示します。
errors	ポートセキュリティエラーデバッグメッセージを表示します。
rpc	Remote Procedure Call (RPC) デバッグメッセージを表示します。
warnings	警告デバッグメッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform port-security コマンドは、**no debug platform port-security** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で

remote command stack-member-number LINE イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグタイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を参照してください。

debug platform qos-acl-tcam

Quality of Service (QoS; サービス品質)、Access Control List (ACL; アクセス制御リスト) Ternary CAM (TCAM) マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform qos-acl-tcam** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform qos-acl-tcam {all | ctcam | errors | labels | mask | rpc | tcam}
```

```
no debug platform qos-acl-tcam {all | ctcam | errors | labels | mask | rpc | tcam}
```

構文の説明

all	すべての QoS および ACL TCAM (QATM) マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
ctcam	Cisco TCAM (CTCAM) 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
errors	QATM エラー関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
labels	QATM ラベル関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
mask	QATM マスク関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
rpc	QATM Remote Procedure Call (RPC) 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
tcam	QATM TCAM 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform qos-acl-tcam コマンドは、**no debug platform qos-acl-tcam** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で

remote command stack-member-number LINE イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を参照してください。

debug platform remote-commands

リモート コマンドのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform remote-commands** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug platform remote-commands

no debug platform remote-commands

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform remote-commands コマンドは、**no debug platform remote-commands** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を参照してください。

debug platform resource-manager

リソース マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform resource-manager** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug platform resource-manager {all | dm | erd | errors | madmed | sd | stats | vld}

no debug platform resource-manager {all | dm | erd | errors | madmed | sd | stats | vld}

構文の説明

all	すべてのリソース マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
dm	宛先マップ デバッグ メッセージを表示します。
erd	等価コストルート記述子テーブル デバッグ メッセージを表示します。
errors	エラー デバッグ メッセージを表示します。
madmed	MAC (メディア アクセス制御) アドレス記述子テーブルおよびマルチエクスパンション記述子テーブル デバッグ メッセージを表示します。
sd	ステーション記述子テーブル デバッグ メッセージを表示します。
stats	統計デバッグ メッセージを表示します。
vld	VLAN (仮想 LAN) リスト記述子デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform resource-manager コマンドは、**no debug platform resource-manager** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で

remote command stack-member-number LINE イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を参照してください。

debug platform snmp

プラットフォーム依存 SNMP（簡易ネットワーク管理プロトコル）ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform snmp** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug platform snmp

no debug platform snmp

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform snmp コマンドは、**no debug platform snmp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を参照してください。

debug platform span

プラットフォーム依存 Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチド ポート アナライザ) ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform span** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug platform span

no debug platform span

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebg platform span コマンドは、**no debug platform span** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を参照してください。

debug platform stack-manager

スタック マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform stack-manager** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform stack-manager {all | rpc | sdp | sim | ssm | trace}
```

```
no debug platform stack-manager {all | rpc | sdp | sim | ssm | trace}
```

構文の説明

all	すべてのスタック マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
rpc	スタック マネージャ Remote Procedure Call (RPC) 使用状況デバッグ メッセージを表示します。
sdp	Stack Discovery Protocol (SDP) デバッグ メッセージを表示します。
sim	スタック情報モジュール デバッグ メッセージを表示します。
ssm	スタック ステートマシン デバッグ メッセージを表示します。
trace	スタック マネージャの入口と出口のデバッグ メッセージを追跡します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform stack-manager コマンドは、**no debug platform stack-manager** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみデバッグがイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を参照してください。

debug platform supervisor-asic

スーパーバイザ Application Specific Integrated Circuit (ASIC; 特定用途向け IC) のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform supervisor-asic** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform supervisor-asic {all | errors | receive | send}
```

```
no debug platform supervisor-asic {all | errors | receive | send}
```

構文の説明

all	すべてのスーパーバイザ ASIC イベント デバッグ メッセージを表示します。
errors	スーパーバイザ ASIC エラー デバッグ メッセージを表示します。
receive	スーパーバイザ ASIC 受信デバッグ メッセージを表示します。
send	スーパーバイザ ASIC 送信デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebbug platform supervisor-asic コマンドは、**no debug platform supervisor-asic** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を参照してください。

debug platform sw-bridge

ソフトウェアブリッジング機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug platform sw-bridge** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform sw-bridge {broadcast | control | multicast | packet | unicast}
```

```
no debug platform sw-bridge {broadcast | control | multicast | packet | unicast}
```

構文の説明

broadcast	ブロードキャスト データ デバッグ メッセージを表示します。
control	プロトコル パケット デバッグ メッセージを表示します。
multicast	マルチキャスト データ デバッグ メッセージを表示します。
packet	送受信データ デバッグ メッセージを表示します。
unicast	ユニキャスト データ デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebbug platform sw-bridge コマンドは、**no debug platform sw-bridge** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を参照してください。

debug platform tcam

Ternary CAM (TCAM) アクセスおよびルックアップのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform tcam** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform tcam {log | read | search | write}
debug platform tcam log l2 {acl {input | output} | local | qos}
debug platform tcam log l3 {acl {input | output} | ipv6 {acl {input | output} | local | qos | secondary}
| local | qos | secondary}
debug platform tcam read {reg | ssram | tcam}
debug platform tcam search
debug platform tcam write {forw-ram | reg | tcam}
no debug platform tcam {log | read | search | write}
no debug platform tcam log l2 {acl {input | output} | local | qos}
no debug platform tcam log l3 {acl {input | output} | ipv6 {acl {input | output} | local | qos |
secondary} | local | qos | secondary}
no debug platform tcam read {reg | ssram | tcam}
no debug platform tcam search
no debug platform tcam write {forw-ram | reg | tcam}
```

構文の説明

log l2 {acl {input output} local qos}	レイヤ 2 フィールド ベース CAM ルックアップ タイプ デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • acl {input output} — 入力または出力 ACL (アクセス制御リスト) ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。 • local — ローカル フォワーディング ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。 • qos — 分類および QoS (サービス品質) ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。
l3 {acl {input output} ipv6 {acl {input output} local qos secondary} local qos secondary}	レイヤ 3 フィールド ベース CAM ルックアップ タイプ デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • acl {input output} — 入力または出力 ACL ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。 • ipv6 {acl {input output} local qos secondary} — IPv6 ベース ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。オプションには、入力または出力 ACL ルックアップ、ローカル フォワーディング ルックアップ、および QoS ルックアップ、またはセカンダリ フォワーディング ルックアップ デバッグ メッセージの表示が含まれます。 • local — ローカル フォワーディング ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。 • qos — 分類および QoS ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。 • secondary — セカンダリ フォワーディング ルックアップ デバッグ メッセージを表示します。

read {reg ssram tcam}	TCAM 読み取りデバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • reg — TCAM レジスタ読み取りデバッグ メッセージを表示します。 • ssram — Synchronous Static RAM (SSRAM) 読み取りデバッグ メッセージを表示します。 • tcam — TCAM 読み取りデバッグ メッセージを表示します。
search	スーパーバイザ主導 TCAM サーチ結果デバッグ メッセージを表示します。
write {forw-ram reg tcam}	TCAM 書き込みデバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <p>forw-ram — フォワーディング RAM 書き込みデバッグ メッセージを表示します。</p> <p>reg — TCAM レジスタ書き込みデバッグ メッセージを表示します。</p> <p>tcam — TCAM 書き込みデバッグ メッセージを表示します。</p>

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebbug platform tcam コマンドは、**no debug platform tcam** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で

remote command stack-member-number LINE イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を参照してください。

debug platform uddld

プラットフォーム依存 Unidirectional Link Detection (UDLD; 単一方向リンク検出) ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform uddld** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform uddld [all | error | rpc {events | messages}]
```

```
no debug platform uddld [all | error | rpc {events | messages}]
```

構文の説明

all	(任意) UDLD デバッグ メッセージをすべて表示します。
error	(任意) エラー条件デバッグ メッセージを表示します。
rpc {events messages}	(任意) UDLD Remote Procedure Call (RPC) デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> events — UDLD RPC イベントを表示します。 messages — UDLD RPC メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform uddld コマンドは、**no debug platform uddld** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug platform vlan

VLAN (仮想 LAN) マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug platform vlan** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform vlan {errors | mvid | rpc}
```

```
no debug platform vlan {errors | mvid | rpc}
```

構文の説明

errors	VLAN エラー デバッグ メッセージを表示します。
mvid	マッピングされた VLAN ID の割り当ておよびフリー デバッグ メッセージを表示します。
rpc	Remote Procedure Call (RPC) デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug platform vlan コマンドは、**no debug platform vlan** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を参照してください。

debug pm

Port Manager (PM) のアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug pm** イネーブル EXEC コマンドを使用します。PM は、すべての論理および物理インターフェイスを制御するステートマシンです。VLAN (仮想 LAN) や Unidirectional Link Detection (UDLD; 単一方向リンク検出) などを含むすべての機能は、PM と連携してスイッチ機能を提供します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug pm {all | assert | card | etherchnl | hatable | messages | port | redundancy | registry | sm | span
| split | vlan | vp}
```

```
no debug pm {all | assert | card | etherchnl | hatable | messages | port | redundancy | registry | sm |
span | split | vlan | vp}
```

構文の説明

all	すべての PM デバッグ メッセージを表示します。
assert	アサート デバッグ メッセージを表示します。
card	ラインカード関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
etherchnl	EtherChannel 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
hatable	Host Access Table イベント デバッグ メッセージを表示します。
messages	PM デバッグ メッセージを表示します。
port	ポート関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
redundancy	冗長性デバッグ メッセージを表示します。
registry	PM レジストリ呼び出しデバッグ メッセージを表示します。
sm	ステートマシン関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
span	スパンニングツリー関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
split	スプリットプロセッサ デバッグ メッセージを表示します。
vlan	VLAN 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
vp	仮想ポート関連イベント デバッグ メッセージを表示します。



(注)

scp および **pvlan** キーワードはコマンドラインのヘルプ スtring に表示されていますが、サポートされていません。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。
12.1(14)EA1	hatable キーワードが追加されました。

使用上の注意事項

undebug pm コマンドは、**no debug pm** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

debug port-security

ポート セキュリティ サブシステムの割り当ておよびステータスのデバッグをイネーブルにするには、**debug port-security** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug port-security

no debug port-security

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug port-security コマンドは、**no debug port-security** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
show port-security	インターフェイスまたはスイッチのポート セキュリティ設定を表示します。

debug qos-manager

Quality of Service (QoS; サービス品質) マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug qos-manager** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug qos-manager {all | event | verbose}
```

```
no debug qos-manager {all | event | verbose}
```

構文の説明

all	すべての QoS マネージャ デバッグ メッセージを表示します。
event	QoS マネージャ 関連イベント デバッグ メッセージを表示します。
verbose	QoS マネージャ 詳細デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug qos-manager コマンドは、**no debug qos-manager** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を参照してください。

debug spanning-tree

スパニングツリーのアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug spanning-tree {all | backbonefast | bpdu | bpdu-opt | config | csuf/csrt | etherchannel | events |
exceptions | general | mstp | pvst+ | root | snmp | switch | synchronization | uplinkfast}
```

```
no debug spanning-tree {all | backbonefast | bpdu | bpdu-opt | config | csuf/csrt | etherchannel | events
| exceptions | general | mstp | pvst+ | root | snmp | switch | synchronization | uplinkfast}
```

構文の説明

all	スパニングツリーのデバッグ メッセージをすべて表示します。
backbonefast	BackboneFast イベント デバッグ メッセージを表示します。
bpdu	スパニングツリーの Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジ プロトコル データ ユニット) デバッグ メッセージを表示します。
bpdu-opt	最適化された BPDU 処理デバッグ メッセージを表示します。
config	スパニングツリー設定変更デバッグ メッセージを表示します。
csuf/csrt	クロススタック UplinkFast およびクロススタック高速遷移アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
etherchannel	EtherChannel サポート デバッグ メッセージを表示します。
events	スパニングツリー トポロジー イベント デバッグ メッセージを表示します。
exceptions	スパニングツリー例外デバッグ メッセージを表示します。
general	一般スパニングツリー アクティビティ デバッグ メッセージを表示します。
mstp	Multiple Spanning-Tree Protocol (MSTP) イベントをデバッグします。
pvst+	Per-VLAN Spanning-Tree Plus (PVST+) イベント デバッグ メッセージを表示します。
root	スパニングツリー ルート イベント デバッグ メッセージを表示します。
snmp	スパニングツリーの SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) 処理デバッグ メッセージを表示します。
synchronization	スパニングツリー同期イベント デバッグ メッセージを表示します。
switch	スイッチ シム コマンド デバッグ メッセージを表示します。このシムは、一般的な Spanning-Tree Protocol (STP; スパニングツリー プロトコル) コードと、各種スイッチ プラットフォーム固有コードとの間のインターフェイスとなるソフトウェア モジュールです。
uplinkfast	UplinkFast イベント デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。
12.1(14)EA1	mstp および csuf/csrt キーワードが追加されました。

使用上の注意事項

undebg spanning-tree コマンドは、**no debug spanning-tree** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
show spanning-tree	スパニングツリー ステート情報を表示します。

debug spanning-tree backbonefast

スパニングツリー BackboneFast イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree backbonefast** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug spanning-tree backbonefast [detail | exceptions]

no debug spanning-tree backbonefast [detail | exceptions]

構文の説明	detail	(任意) BackboneFast デバッグ メッセージの詳細を表示します。
	exceptions	(任意) スパニングツリー BackboneFast 例外デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト デバッグはディセーブルです。

コマンド モード イネーブル EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項 **undebug spanning-tree backbonefast** コマンドは、**no debug spanning-tree backbonefast** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
	show spanning-tree	スパニングツリー ステータス情報を表示します。

debug spanning-tree bpdu

送受信されたスパニングツリー Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジプロトコルデータユニット) のデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree bpdu** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug spanning-tree bpdu [receive | transmit]

no debug spanning-tree bpdu [receive | transmit]

構文の説明

receive	(任意) 受信 BPDU 用非最適化パスのデバッグ メッセージを表示します。
transmit	(任意) 送信 BPDU 用非最適化パスのデバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug spanning-tree bpdu コマンドは、**no debug spanning-tree bpdu** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
show spanning-tree	スパニングツリー ステータス情報を表示します。

debug spanning-tree bpdu-opt

最適化されたスパニングツリー Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジプロトコルデータユニット) 処理のデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree bpdu-opt** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug spanning-tree bpdu-opt [detail | packet]

no debug spanning-tree bpdu-opt [detail | packet]

構文の説明

detail	(任意) 最適化された BPDU 処理デバッグ メッセージの詳細を表示します。
packet	(任意) パケット レベルの最適化された BPDU 処理デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug spanning-tree bpdu-opt コマンドは、**no debug spanning-tree bpdu-opt** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
show spanning-tree	スパニングツリー ステータス情報を表示します。

debug spanning-tree mstp

Multiple Spanning-Tree Protocol (MSTP) ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree mstp** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug spanning-tree mstp {all | boundary | bpdu-rx | bpdu-tx | errors | flush | init | migration | pm |
proposals | region | roles | sanity_check | sync | tc | timers}
```

```
no debug spanning-tree mstp {all | boundary | bpdu-rx | bpdu-tx | errors | flush | init | migration | pm
| proposals | region | roles | sanity_check | sync | tc | timers}
```

構文の説明

all	デバッグ メッセージをすべてイネーブルにします。
boundary	次に示す境界上でのフラグ変更をデバッグします。 <ul style="list-style-type: none"> Multiple Spanning-Tree (MST) リージョンおよび Rapid Spanning-Tree Protocol (RSTP) が稼働する単一のスパニングツリー リージョンとの境界 MST リージョンと、802.1D が稼働する単一のスパニングツリー リージョンとの境界 MST リージョンと、設定が異なる別の MST リージョンとの境界
bpdu-rx	受信した MST Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジ プロトコル データ ユニット) をデバッグします。
bpdu-tx	送信された MST BPDU をデバッグします。
errors	MSTP エラーをデバッグします。
flush	ポート フラッシュ メカニズムをデバッグします。
init	MSTP データ構造の初期化をデバッグします。
migration	プロトコル移行ステート マシンをデバッグします。
pm	MSTP ポート マネージャ イベントをデバッグします。
proposals	指定スイッチとルート スイッチ間のハンドシェイク メッセージをデバッグします。
region	Switch Processor (SP) と Route Processor (RP; ルート プロセッサ) 間のリージョン同期をデバッグします。
roles	MSTP のロールをデバッグします。
sanity_check	受信した BPDU の健全性チェック メッセージをデバッグします。
sync	ポート同期イベントをデバッグします。
tc	トポロジー変更通知イベントをデバッグします。
timers	開始、停止、および期限切れイベントの MSTP タイマーをデバッグします。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンドモード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(14)EA1	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

`undebug spanning-tree mstp` コマンドは、`no debug spanning-tree mstp` コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、`session switch-number` イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで `debug` コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で `remote command stack-member-number LINE` イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show debugging</code>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
<code>show spanning-tree</code>	スパニングツリー ステート情報を表示します。

debug spanning-tree switch

Spanning-Tree Protocol (STP; スパニングツリー プロトコル) ソフトウェア モジュールとポート マネージャ ソフトウェア モジュール間のソフトウェア インターフェイスのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree switch** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug spanning-tree switch {all | errors | flush | general | helper | pm | rx {decode | errors | interrupt | process} | state | tx [decode] | uplinkfast}
```

```
no debug spanning-tree switch {all | errors | flush | general | helper | pm | rx {decode | errors | interrupt | process} | state | tx [decode] | uplinkfast}
```

構文の説明

all	スパニングツリー スイッチのデバッグ メッセージをすべて表示します。
errors	スパニングツリー ソフトウェア モジュールとポート マネージャ ソフトウェア モジュール間のインターフェイスに関するデバッグ メッセージを表示します。
flush	シム フラッシュ動作のデバッグ メッセージを表示します。
general	一般イベント デバッグ メッセージを表示します。
helper	スパニングツリー ヘルパータスク デバッグ メッセージを表示します。ヘルパータスクは、バルク スパニングツリー更新を処理します。
pm	ポート マネージャ イベント デバッグ メッセージを表示します。
rx	受信した Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジプロトコル データ ユニット) 処理のデバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • decode — デコード済み受信パケットを表示します。 • errors — 受信エラー デバッグ メッセージを表示します。 • interrupt — Interrupt Service Request (ISR) デバッグ メッセージを表示します。 • process — プロセス受信 BPDU デバッグ メッセージを表示します。
state	スパニングツリー ポートステート変更デバッグ メッセージを表示します。
tx [decode]	送信された BPDU 処理デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • decode — (任意) デコード済み送信パケットを表示します。
uplinkfast	UplinkFast パケット送信デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。
12.1(14)EA1	flush および uplinkfast キーワードが追加されました。

使用上の注意事項

undebg spanning-tree switch コマンドは、**no debug spanning-tree switch** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
show spanning-tree	スパニングツリー ステート情報を表示します。

debug spanning-tree uplinkfast

スパニングツリー UplinkFast イベントのデバッグをイネーブルにするには、**debug spanning-tree uplinkfast** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug spanning-tree uplinkfast [exceptions]

no debug spanning-tree uplinkfast [exceptions]

構文の説明

exceptions (任意) スパニングツリー UplinkFast 例外デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebg spanning-tree uplinkfast コマンドは、**no debug spanning-tree uplinkfast** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
show spanning-tree	スパニングツリー ステータス情報を表示します。

debug sw-vlan

VLAN (仮想 LAN) マネージャのアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、**debug sw-vlan** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan {badpmcookies | cfg-vlan {bootup | cli} | events | ifs | management | mapping |
notification | packets | redundancy | registries | vtp}
```

```
no debug sw-vlan {badpmcookies | cfg-vlan {bootup | cli} | events | ifs | management | mapping |
notification | packets | redundancy | registries | vtp}
```

構文の説明

badpmcookies	不良ポート マネージャ クッキーの VLAN マネージャ インシデントのデバッグ メッセージを表示します。
cfg-vlan {bootup cli}	config-vlan デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> bootup — スイッチがブートアップするときにメッセージを表示します。 cli — CLI (コマンドライン インターフェイス) が config-vlan モードのときにメッセージを表示します。
events	VLAN マネージャ イベントのデバッグ メッセージを表示します。
ifs	debug sw-vlan ifs コマンドを参照してください。
management	内部 VLAN の VLAN マネージャ管理のデバッグ メッセージを表示します。
mapping	VLAN マッピングのデバッグ メッセージを表示します。
notification	debug sw-vlan notification コマンドを参照してください。
packets	パケット処理およびカプセル化プロセスのデバッグ メッセージを表示します。
redundancy	VTP (VLAN トランキンング プロトコル) VLAN 冗長性のデバッグ メッセージを表示します。
registries	VLAN マネージャ レジストリのデバッグ メッセージを表示します。
vtp	debug sw-vlan vtp コマンドを参照してください。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug sw-vlan コマンドは、**no debug sw-vlan** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show debugging</code>	イネーブルになっているデバッグタイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
<code>show vlan</code>	管理ドメインに設定されたすべての VLAN または特定の VLAN (VLAN 名または ID を指定した場合) のパラメータを表示します。
<code>show vtp</code>	VTP 管理ドメイン、ステータス、およびカウンタに関する一般情報を表示します。

debug sw-vlan ifs

VLAN (仮想 LAN) マネージャ IOS File System (IFS) エラー テストのデバッグをイネーブルにするには、**debug sw-vlan ifs** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan ifs {open {read | write} | read {1 | 2 | 3 | 4} | write}
```

```
no debug sw-vlan ifs {open {read | write} | read {1 | 2 | 3 | 4} | write}
```

構文の説明

open {read write}	VLAN マネージャ IFS ファイルオープン操作デバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> read — VLAN マネージャ IFS ファイル読み取り操作デバッグ メッセージを表示します。 write — VLAN マネージャ IFS ファイル書き込み操作デバッグ メッセージを表示します。
read {1 2 3 4}	指定されたエラー テスト (1、2、3、または 4) のファイル読み取り操作デバッグ メッセージを表示します。
write	ファイル書き込み操作デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug sw-vlan ifs コマンドは、**no debug sw-vlan ifs** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

ファイルの読み取り処理を選択すると、処理 **1** ではヘッダー検証ワードおよびファイルバージョン番号が格納されたファイル ヘッダーが読み取られます。処理 **2** ではドメインおよび VLAN 情報の大部分が格納されたファイル本体が読み取られます。処理 **3** では Type Length Version (TLV) 記述子構造が読み取られます。処理 **4** では TLV データが読み取られます。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
show vlan	管理ドメインに設定されたすべての VLAN または特定の VLAN (VLAN 名または ID を指定した場合) のパラメータを表示します。

debug sw-vlan notification

ISL (スイッチ間リンク) VLAN (仮想 LAN) ID のアクティブ化および非アクティブ化のデバッグをイネーブルにするには、**debug sw-vlan notification** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan notification {accfwdchange | allowedvlanfgchange | fwdchange | linkchange |
modechange | pruningcfgchange | statechange}
```

```
no debug sw-vlan notification {accfwdchange | allowedvlanfgchange | fwdchange | linkchange |
modechange | pruningcfgchange | statechange}
```

構文の説明

accfwdchange	集約アクセス インターフェイス スパニングツリー フォワード変更の VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
allowedvlanfgchange	許可 VLAN の設定変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
fwdchange	スパニングツリー フォワーディング変更の VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
linkchange	インターフェイス リンクステート変更の VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
modechange	インターフェイス モード変更の VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
pruningcfgchange	プルーニング設定変更の VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
statechange	インターフェイス ステート変更の VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug sw-vlan notification コマンドは、**no debug sw-vlan notification** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>show debugging</code>	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
	<code>show vlan</code>	管理ドメインに設定されたすべての VLAN または特定の VLAN (VLAN 名または ID を指定した場合) のパラメータを表示します。

debug sw-vlan vtp

VLAN Trunking Protocol (VTP; VLAN トランキング プロトコル) コードのデバッグをイネーブルにするには、`debug sw-vlan vtp` イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの `no` 形式を使用します。

```
debug sw-vlan vtp {events | packets | pruning [packets | xmit] | redundancy | xmit}
```

```
no debug sw-vlan vtp {events | packets | pruning | redundancy | xmit}
```

構文の説明	events	説明
	<code>events</code>	汎用の論理フローのデバッグ メッセージおよび VTP コード内の VTP_LOG_RUNTIME マクロによって生成された VTP メッセージの詳細を表示します。
	<code>packets</code>	IOS VTP プラットフォーム依存レイヤから VTP コードに渡されたすべての着信 VTP パケット (プルーニング パケットを除く) の内容のデバッグ メッセージを表示します。
	<code>pruning [packets xmit]</code>	VTP コードのプルーニング セグメントによって生成されたデバッグ メッセージを表示します。キーワードの意味は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <code>packets</code> — (任意) IOS VTP プラットフォーム依存レイヤから VTP コードに渡されたすべての着信 VTP プルーニング パケットの内容のデバッグ メッセージを表示します。 <code>xmit</code> — (任意) VTP コードが IOS VTP プラットフォーム依存レイヤに送信するように要求したすべての発信 VTP パケットの内容のデバッグ メッセージを表示します。
	<code>redundancy</code>	VTP 冗長性のデバッグ メッセージを表示します。
	<code>xmit</code>	VTP コードが IOS VTP プラットフォーム依存レイヤに送信するように要求したすべての発信 VTP パケット (プルーニング パケットを除く) の内容のデバッグ メッセージを表示します。

デフォルト デバッグはディセーブルです。

コマンド モード イネーブル EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug sw-vlan vtp コマンドは、**no debug sw-vlan vtp** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

pruning キーワードのあとにパラメータを指定しない場合は、VTP プルーニング デバッグ メッセージが表示されます。これらのメッセージは、VTP プルーニング コード内の VTP_PRUNING_LOG_NOTICE、VTP_PRUNING_LOG_INFO、VTP_PRUNING_LOG_DEBUG、VTP_PRUNING_LOG_ALERT、および VTP_PRUNING_LOG_WARNING マクロによって生成されます。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
show vtp	VTP 管理ドメイン、ステータス、およびカウンタに関する一般情報を表示します。

debug uddld

UniDirectional Link Detection (UDLD; 単一方向リンク検出) 機能のデバッグをイネーブルにするには、**debug uddld** イネーブル EXEC コマンドを使用します。UDLD デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug uddld {events | packets | registries}
```

```
no debug uddld {events | packets | registries}
```

構文の説明

events	UDLD プロセス イベントが発生したときのデバッグ メッセージを表示します。
packets	UDLD プロセスがパケット キューからパケットを受信し、UDLD プロトコル コードの要求に応答してそれらを送信するときに、このプロセスのデバッグ メッセージを表示します。
registries	UDLD プロセスが UDLD プロセス依存モジュールおよびその他のフィーチャ モジュールからのレジストリ コールを処理するときに、このプロセスのデバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug uddld コマンドは、**no debug uddld** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドライン プロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

debug uddld events を入力すると、次に示すデバッグ メッセージが表示されます。

- 一般的な UDLD プログラム論理フロー
- ステート マシンのステート変更
- ErrDisable ステートの設定およびクリアのプログラム アクション
- 近接キャッシュの追加および削除
- コンフィギュレーション コマンドの処理
- リンクアップおよびリンクダウン識別処理

debug uddld packets を入力すると、次に示すデバッグ メッセージが表示されます。

- 着信パケット受信時の一般的なパケット処理プログラム フロー
- 受信したパケットをパケット受信コードで調べるときの、各種パケットの内容の識別情報 (Type Length Version [TLV] など)
- パケット送信の試行内容およびその成果

debug uddld registries を入力すると、次に示すカテゴリのデバッグ メッセージが表示されます。

- サブブロックの作成
- ファイバポート ステータスの変更
- ポート マネージャ ソフトウェアからのステート変更識別情報
- MAC (メディア アクセス制御) アドレス レジストリ コール

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。
show uddld	すべてのポートまたは指定されたポートの UDLD 管理ステートまたは動作ステートを表示します。

debug vqpc

VLAN Query Protocol (VQP) クライアントのデバッグをイネーブルにするには、**debug vqpc** イネーブル EXEC コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug vqpc [**all** | **cli** | **events** | **learn** | **packet**]

no debug vqpc [**all** | **cli** | **events** | **learn** | **packet**]

構文の説明

all	(任意) VQP クライアント デバッグ メッセージをすべて表示します。
cli	(任意) VQP クライアント CLI (コマンドライン インターフェイス) デバッグ メッセージを表示します。
events	(任意) VQP クライアント イベント デバッグ メッセージを表示します。
learn	(任意) VQP クライアント アドレス学習デバッグ メッセージを表示します。
packet	(任意) VQP クライアント パケット情報デバッグ メッセージを表示します。

デフォルト

デバッグはディセーブルです。

コマンド モード

イネーブル EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(11)AX	このコマンドが導入されました。

使用上の注意事項

undebug vqpc コマンドは、**no debug vqpc** コマンドと同じです。

デバッグをイネーブルにすると、スタック マスターでのみイネーブルになります。スタック メンバーのデバッグをイネーブルにする場合は、**session switch-number** イネーブル EXEC コマンドでスタック マスターからセッションを開始してください。次に、スタック メンバーのコマンドラインプロンプトで **debug** コマンドを入力します。最初にセッションを開始せずにメンバー スイッチのデバッグをイネーブルにするには、スタック マスター スイッチ上で **remote command stack-member-number LINE** イネーブル EXEC コマンドを使用します。

関連コマンド

コマンド	説明
show debugging	イネーブルになっているデバッグ タイプに関する情報を表示します。構文情報については、 Cisco IOS Release 12.2 Configuration Guides and Command References > Cisco IOS Configuration Fundamentals Configuration Guide, Release 12.2 > System Management > Troubleshooting and Fault Management を選択してください。

■ debug vqpc